

# 2019年1月14日掲載 物流ニッポン

## 特積み生かし新たな道

### 第一貨物



▼武藤幸規社長（山形市）

会社の経営状況はここ数年間、全社を挙げて取り組んできた取引条件の改善が功を奏し、バブル崩壊以前の状況までに回復させることができた。

これは単に収益を確保したということにとどまらず、今後の継続的な収益確保への必要施策を明らかにしてくれた。

近年のデジタル革命により、消費財の購入形態はネット通販に大きくシフトしている。当社の特別積合せ事業は商業物流、すなわちBtoB（企業間）に沿った物流だが、片やネット通販はBtoC（企業―消費者）の宅配が主流だ。今日の好調な

業績の影で、まさに危急存亡の課題がしのび寄ってきていると言わざるを得ない。

今後、従来からの課題である川上物流、つまり調達物流への注力が必要になることは間違いないが、海外物流の開拓、更には夜間の集荷・配達など通常ではない輸送も考えなければならぬ。小口混載という特積みの特性を生かしながら新たな道を見つけないければ、こうした大きな変化に対応していくことはできない。このことを肝に銘じ、

おびえず、恐れずに、全社員の英知を結集しながら前進していきたい。